



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 102

Aug 2026

目 次

○諸報告

- 会長および評議員選挙の結果 2
- 評議員追加選出の結果 2
- 2026 年度日本植物分類学会野外研修会度の報告 2

○お知らせ

- 2026 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ 3
- 第 26 回 (2027 年度) 日本植物分類学会賞
(学会賞および奨励賞) の受賞候補者の募集 4
- 日本植物分類学会 第 26 回大会 (茨城) のお知らせ 4
- 植物関連雑誌のタイトル紹介 4

○書評

- 福島県の野生ラン 11

○会員消息

- 12

会長および評議員選挙の結果

選挙管理委員長 志賀 隆

日本植物分類学会ニュースレター No.101 で公示された日本植物分類学会会長および評議員選挙の開票結果についてお知らせします。

開票は 2026 年 7 月 18 日（土）に新潟大学教育学部（新潟市）において、本学会会員の五百川裕氏、加藤将氏の立ち会いのもとで行われました。開票の結果、以下の方々が次期会長および評議員に決まりました。

【会長】

当選 永益 英敏 56 票
次点 西田 佐知子 11 票
(有効投票数 84 票)

【評議員】

当選 首藤 光太郎 28 票
ニッタ ジョエル 24 票
高山 浩司 19 票
海老原 淳 18 票
高野 温子 18 票
田金 秀一郎 18 票
布施 静香 18 票
黒沢 高秀* 17 票
次点 池田 博* 17 票

*「役員等の選出についての細則」第 4 条に従い、第 8 位で同得票数となった 2 名について抽選を行い、黒沢高秀氏を当選者とした。

(有効投票数 82 票)

評議員追加選出の結果

次期評議員 海老原 淳、黒沢 高秀、首藤 光太郎、田金 秀一郎、高野 温子、高山 浩司、ニッタ ジョエル、布施 静香（五十音順）

選挙で選出された 8 名の次期評議員は

、得票数を参考に、分類群、地区の均整などを考慮して約 4 名の次期評議員を追加指名することとされています（役員等の選出についての細則第 4 条）。この規定に基づいて、8 名で合議の上、以下の 4 名を次期評議員として追加選出いたしました。

佐藤 博俊、嶋村 正樹、仲田 崇志、西野 貴子（五十音順）

2026 年度日本植物分類学会野外研修会の報告

愛知県豊田市 渡部教行

2026 年度の野外研修会は、青森市森林博物館館長の辻村収様、環境省東北地方環境事務所八戸管理官事務所の安藤一次様、沖縄美ら海財団総合研究所の米倉浩司先生他、関係の皆様にご指導いただき、6 月 20 日（土）に、下北半島東海岸の東通村猿ヶ森ヒバ埋没林、六ヶ所村平沼高瀬川河口左岸塩性湿地、三沢市仏沼湿地（広大なアシ原）の観察、翌 21 日（日）に青森市森林博物館の見学をさせていただきました。

集合地の青い森鉄道三沢駅東口駐車場から六ヶ所村の方向へ北上する道路の東側は防風林のクロマツを主体とする雑木林になっていてイワガラミが目立ちました。猿ヶ森ヒバ埋没林では林床にびっしりとオオウメガサソウが広がっているのが印象的でした。

ジンヨウイチヤクソウ、コバノイチヤクソウ、ペニバナイチヤクソウなどを観察しましたが、ツタウルシが一面に広がっているのが要注意でした。猿ヶ森川沿いに枯木が突き出ている状況を見て、ヒバ埋没林というものを実感することができました。高瀬川河口の塩性湿地ではオオクダ、ヤマメスゲ、ヒメウスオスゲ、マルミノシバナ、エゾハルリソウ、エゾツルキンバイ、ヒメキンボウゲなど西日本の人間には大変珍しい植物の生育状況を実際に観察することができました。広いアシ原の仏沼では鳥類オオセッカやコジュリンが鳴いている中で、ミズドクサ、ジョウロウスゲ、ヒメミクリ、クロバナロウゲなどを観察すると共に昆虫ガのペモンマダラの幼虫がツルフジバカマに隠蔽擬態して付いていることは本当に驚きでした。青森市森林博物館では玄関前のヒノキアスナロやアメリカトネリコを観察すると共にバックヤードの収蔵庫や学習用植物標本ファイルなどを見学させていただきました。また米倉先生が収蔵庫の標本を同定されているところを見学させていただき勉強になりました。頂いた青森市森林博物館のH28-10-2 調査報告や安藤一次様の同行報告を拝見させていただき観察残しが多々あることに気がつきましたが本当に色々なことを学習する機会になりました。お世話になりました皆様に心から御礼申し上げます。



猿ヶ森ヒバ埋林



高瀬川塩性湿地

(撮影：野外研修会担当委員 根本秀一)

お知らせ

2026 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 横川 昌史

2026 年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦先生にお世話いただき、ハイブリッド（大阪学院大学の現地会場とオンライン配信）での開催に向けて準備を進めております。講演会後は懇親会も開催予定です。皆様お誘い合わせの上、ぜひご参加ください。なお、日本植物分類学会非会員の方でもご参加いただけます。詳細につきましては、次号のニュースレターでご案内いたします。

日時：2026 年 12 月 12 日（土）午前 10 時～午後 5 時 00 分

講演会場：大阪学院大学 2 号館地下 1 階 2 号教室（02-B1-02 教室）

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南 2 丁目 36 番 1 号（電話：06-6381-8434）

講演スケジュールと演題（予定）

10:00-10:10 ご挨拶 永益 英敏（会長）

10:10-11:00 高橋 晃太郎（京都大学）「スゲ属の多様性を起源の地から探る」

11:00-11:50 山本 将也（兵庫教育大学）「91 年ぶりとなる日本産サクラソウ属の新種・シモキタコザクラについて」
(11:50-13:20 昼食)

13:20-14:10 内藤 芳香（徳島県立博物館）「種間の影響に着目したスイレン属植物の分布形成」

14:10-15:00 松崎 令（大阪工業大学）「カラフルな雪を引き起こす氷雪藻類の実体を探る」

(15:00-15:10 休憩)

15:10-16:00 山住 一郎（近畿植物同好会）「大阪のシダフローラ 過去から現在、そして未来へー」

16:00-16:50 井鷲 裕司（京都大学名誉教授）「ゲノム解析で絶滅危惧植物をまもる」

16:50-17:00 ご挨拶 林 一彦

第 26 回 (2027 年度) 日本植物分類学会賞 (学会賞および奨励賞) の受賞候補者の募集

日本植物分類学会会長 永益 英敏

学会賞選考委員長 梶田 忠

以下の 2 つの賞の受賞候補者を募集します。候補者は、学会賞選考規定第 2 条に基づき、以下に該当する方です。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。これまでの受賞者名等は、学会ホームページをご参照ください。

日本植物分類学会賞：植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められた者に授与する。受賞者の資格は、10 年以上継続して本会会員である者とする。

日本植物分類学会奨励賞：受賞年の 4 月 1 日において満 38 歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な研究者（学生を含む）に授与する。受賞者の資格は、3 年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している者とする。

募集要領

他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由、どちらの賞に推薦するかをお知らせください。自薦の場合は (1) どちらの賞への応募か (2) ご自分の研究全体に関するタイトル (3) 略歴（生年月日、学歴、職歴など）(4) 調査・業績の概要 (5) 業績リスト（論文、著書など）と本学会の大会での発表記録をワードファイル、あるいは A4 用紙に記入して（書式は自由）お送りください。自薦、他薦を問わず、さらに必要な資料があれば、学会賞選考委員会から候補者の方に提出を依頼します。応募は、e-mail でのファイル添付、または郵便でお願いします。

書類送付先：〒907-1541 沖縄県八重山郡竹富町字上原 870 琉球大学熱帯生物圏研究センター 西表研究施設
梶田 忠 宛 e-mail: tkaji@cs.u-ryukyu.ac.jp

応募締切日：令和 8 年 9 月 30 日（水）

その他：両賞の受賞者は、令和 9 年 3 月の日本植物分類学会第 26 回大会において表彰されます。

また、同大会において受賞講演を行っていただくことを原則としております。

日本植物分類学会第 26 回大会（茨城）のお知らせ

第 26 回大会会長 遊川知久

2027 年 3 月 3 日～6 日に茨城県で開催予定の日本植物分類学会第 26 回大会の情報は、下記のホームページで随時発信していく予定です。9 月上旬に会場が確定する見込みですので、確定しましたら早めの宿泊予約をお勧めします。

【ホームページ】<https://sites.google.com/view/jsps2027ibaraki/>

【問い合わせ先】日本植物分類学会第 26 回大会（茨城）大会実行委員長 海老原 淳

E-mail: ebihara@kahaku.go.jp

植物関連雑誌のタイトル紹介

富山県中央植物園 中田政司

○利尻研究

〒097-0311 利尻郡利尻町仙法志字本町 136 利尻町立博物館

<https://riishiri.sakura.ne.jp/Sites/RS/download/452026.html>

第 45 号 2026 年 3 月—石橋整司・鈴木 愛・前原 忠：利尻島西部斜面における森林の林分構造と年輪解析／富岡森理・佐藤雅彦・風間健太郎：利尻島におけるササ属植物の開花について

○秋田自然史研究

〒 010-0873 秋田市千秋城下町 8-18 田中政行方 秋田自然史研究会

<http://akita-nathist.o.oo7.jp/mokuji.htm>

第 83 号 2026 年 1 月—沓沢周弘：イソマカキラン（ラン科）秋田県で確認／高田 順：秋田市手形山低地ブナ林の植生と植物相／藤原陸夫・阿部裕紀子：本州北部に分布するヒロハウラジロヨモギとハタヨモギ／阿部裕紀子：秋田県新産の帰化植物（3）／沖田貞敏：秋田県植物分布資料（18）ミチバタガラシ、テングノコヅチ、オオタヌキモ／佐々木虎太郎・小川りさ：秋田県立大学（秋田キャンパス）におけるマツ林の植物相

○山形県立博物館研究報告

〒 990-0826 山形市霞城町 1-8（霞城公園内）山形県立博物館

<https://www.yamagata-museum.jp/archives/3646>

第 41 号 2023 年 3 月—山口 真：昭和初期の山形県内植物学者の動向

第 42 号 2024 年 3 月—山口 真：山形大学農学標本コレクションについての初期報告と今後の課題

第 44 号 2026 年 3 月—山口 真：山形県出身植物学者 佐藤正己博士について／沢 和浩：菌類研究者清水大典の維管束植物における功績～米沢生物愛好会研究誌「つち団子」の記録から

○群馬県立自然史博物館研究報告

〒 370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館

<https://www.gmnh.pref.gunma.jp/research/no30/>

第 30 号 2026 年 3 月—大森威宏：群馬県のオンタケブシ *Aconitum metajaponicum* Nakai に関する覚え書き／佐藤民雄：ニセシマニシキソウ *Euphorbia ophthalmica* Pers.（トウダイグサ科）の群馬県からの初記録／里見哲夫：ミョウギシダと発見者「染谷徳五郎」を追って

○茨城県自然博物館研究報告

〒 306-0622 茨城県坂東市大崎 700 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

<https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/materials/research/report/8729>

第 28 号 2025 年 12 月—杉村康司・鶴沢美穂子：茨城県で 90 年ぶりに生育が再確認された稀少藓類ツルゴケの分布・生態（英文）

○埼玉県立自然の博物館研究報告

〒 369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬 1417-1 埼玉県立自然の博物館

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/smnh/20/0/_contents/-char/ja

第 20 号 2026 年 3 月—三村昌史・藤井良造・小林健人・内野秀重・三上忠仁・岩浪 創・小澤正幸：埼玉県・東京都・山梨県におけるヨシススキ *Tripidium arundinaceum* (Retz.) Welker, Voronts. et E.A.Kellogg（イネ科）の生育状況／佐藤 清・岩浪 創／埼玉県におけるナチシダ *Pteris wallichiana* の初記録／岩浪 創：埼玉県内におけるクロノキシノブ、フジノキシノブ、ノキシノブの分布／三上忠仁・岩浪 創・三村昌史・森廣信子・平 誠・木村和喜夫：埼玉県植物誌改訂に向けた補遺資料 1－近年見いだされた注目すべき種－

○神奈川県立博物館研究報告 自然科学

〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館

<https://nh.kanagawa-museum.jp/publications/bull/bull-55.html>

第 55 号 2026 年 3 月—田中徳久：標本データベースを用いた神奈川県における帰化植物の増加率の変遷

○神奈川自然誌資料

〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館

<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1706848520162/index.html>（41 号より完全オンライン版化）

第 47 号 2026 年 3 月—小嶋紀行：丹沢山地唐沢峠におけるササバギランの不時開花の記録：形態と生育環境特性に着目して／渡辺恭平・田邊結太・小林 駿：希少なハナバチ類の生息が示唆する「仙石原すすき草原」の保全上の重要性／田邊結太・渡辺恭平：神奈川県内の河川敷でヤナギ類に訪花するハナバチ相／田中徳久：2019 年にコマロフ植物研究所・国立科学博物館・東京都立大学牧野標本館で見出した神奈川県の地域植物相の重要な記録となる標本

○横須賀市博物館研究報告（自然科学）

〒 238-0016 横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館

<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/publication?view=> 研究報告（自然科学）
第 73 号 2026 年 3 月—池田隆一・石橋美春・山本 薫：外来種コゴメズ（イラクサ科）を横須賀市で確認

○山梨植物研究

〒 400-0049 山梨県甲府市富竹 4 丁目 8-36 小西方 山梨県植物研究会

第 38 号 2025 年 4 月—村上 力：甲府市北部で確認されたマヤラン (*Cymbidium macrorhizon*) とラン科植物に寄生するハモグリバエ類の食害について／亀井忠文：南アルプス産絶滅危惧植物の種の保全を目的とする増殖技術等の検討 (1) タカネビランジ (*Silene akaishialpina*) について／望月一三：山梨県南部地域におけるオオバノアマクサシダ（イノモトソウ科）の生長に伴う形態について／小林富一郎：ギンレイカ *L. acroadenia* の県内分布／小林富一郎：ハグロソウ *P. japonica* の県内分布／小林富一郎：ホスモ *N. graminea* 並びにヒロハトリゲモ *N. chinensis* を記録する／蘗原 桂：南アルプス北岳及び間ノ岳周辺の植物調査及び食害に関する報告／蘗原 桂：令和 6 年度 希少種等の調査協力及び新規購入調査用具に関する報告／蘗原 桂：令和 6 年度の山梨県レッドデータブック掲載種（植物）に関する調査報告

第 39 号 2026 年 4 月—亀井忠文・石川啓吾：南アルプス産絶滅危惧植物の種の保全を目的とする増殖技術等の検討 (2) タカネマンテマ (*Silene uralensis*) について／蘗原 桂：令和 7 年度の山梨県レッドデータブック掲載種（植物）に関する調査報告／蘗原 桂・篠原弘一・小俣 滋・高橋洋文・高橋洋子・高橋翔真：鳳凰三山周辺の植物調査及び食害に関する報告

○長野県植物研究会誌

〒 380-8544 長野市西長野 6 の口 信州大学教育学部森林生態学研究室 長野県植物研究会

https://shinshu-plants.jp/?page_id=241

第 58 号 2025 年 6 月—首藤光太郎：【特別寄稿】長野県におけるナガバエビモの記録をめぐる混乱とその整理／藤田淳一・井浦和子・中村千賀・千葉悟志・松田貴子：令和元年台風 19 号 (Hagibis) 後の千曲川氾濫原における植物相の回復状況Ⅳ／三樹和博：長野県ササ類地図 (11) 北信地域における多雪環境下のササ類相／齋藤信夫：平内町夜越山森林公園の森林植生／落合照雄：志賀高原三角池の水質と付着珪藻類／坂口竣弥：ヤツガタケムグラの茎の刺について／所沢あさ子・清水岳志・大熊純子：長野県飯田市・阿智村・阿南町における自生ハナノキ毎木調査 546 個体の分布とハナノキ湿地の現状報告（はなのき友の会 2024 年・第 3 回目）／齋藤信夫：五所川原市狼野長根公園におけるアイナエの実態／松井雅之：長野県で発見されたタカネイチヨウラン（ラン科イチヨウラン属）／井浦和子・藤田淳一：長野県で生育が確認された国外外来種サヤヒゲシバ *Sporobolus vaginiflorus* (Torr. ex A.Gray) Alph.Wood var. *vaginiflorus*／大塚孝一：長野県のおオゲジゲシダとコゲジゲシダ（ヒメシダ科）／藤田淳一：長野県植物誌改訂調査で確認された県新産種の紹介Ⅶ／竹重 聡：上高地地域で新たに確認された植物／藤田淳一・星山耕一・野口 健・大塚孝一・井浦和子・蛭間 啓・中村千賀・石田祐子・佐藤利幸：長野県植物誌パイロット版Ⅴ／横内文人：故・小泉秀雄先生の野帳 (20)

第 59 号 2026 年 6 月—【特別寄稿】海老原 淳：国立科学博物館所蔵の小泉秀雄植物標本コレクションの全体像／井浦和子・一ノ瀬久子・津田吉晃：長野県高山村山田牧場の植物相／三樹和博：長野県ササ類地図 (12) 長野県におけるスズダケ属・スズササ属の分布／齋藤信夫：青森県平内町夏泊半島大島の森林植生／落合照雄：志賀高原 瓢箪池の淡水微生物／坂口竣弥：エゾノツバムグラとオオバノツバムグラの形態的及び生態的特徴／小山泰弘：草原環境維持のために行う草刈りの効果とニホンジカとの関係／齋藤信夫：オオバユリの開花個体の個体サイズと最下葉高の変化／中村千賀：長野県新産のヒメミズワラビと戸隠山で再確認されたヒメミズサイシン／上野勝典・上野由貴枝：タキシダ 長野県新産種／漆崎壮太：長野県上田市で生育が確認されたヤマドリトラノオと生育環境の考察／大塚孝一・尾関雅章：長野県大桑村で生育が確認されたアツギノスカイタチシダマガイ（オンシダ科）／倉 行雄・一倉綾子：群馬県で発見されたクロヤツシロラン（ラン科）／藤田淳一：長野県植物誌改訂調査で確認された県新産種の紹介Ⅷ／千葉悟志 ほか：市立大町山岳博物館・安曇野市豊科郷土博物館と高知県立牧野植物園との間での交換標本について／藤田淳一・星山耕一・野口 健・大塚孝一・川上美保子・松田貴子・中村千賀：長野県植物誌パイロット版Ⅵ／大塚孝一：長野県木曽地域の植物相研究／大塚孝一：長野県植物誌改訂 文献資料 7：「日本シダの会会報」に掲載された植物相・植生等に関する文献目録／横内文人：故・小泉秀雄先生の野帳 (21)。

○富山市科学博物館研究報告

〒 939-8084 富山県富山市西中野町 1-8-31 富山市科学博物館

<https://www.tsm.toyama.toyama.jp/104162>

第 49 号 2025 年 11 月—佐藤 卓：リタートラップ調査に基づくウラボシガシの落葉リズムと堅果生産／坂井奈緒子・古木達郎：富山県のタイ類・ツノグケ類チェックリスト (2025 年)

○富山県中央植物園研究報告

〒 939-2713 富山県富山市婦中町上轡田 42 富山県中央植物園

https://www.bgtym.org/_wp/wp-content/uploads/2026/04/f3148c3538d1e19e92f9240b8cbd405b.pdf

第 31 号 2026 年 3 月—兼本 正：台湾で採集した *Pilea elliptifolia*, *P. melastomoides* と *P. plataniflora* の細胞学的研究（英文）／吉田めぐみ：立山ノ越におけるタテヤマキンバイとその周囲の植物への訪花昆虫／和久井彬実・工藤 岳：ハクサンボウフウの発芽特性の個体群間変異：大雪山と立山における比較／高橋一臣・吉田めぐみ・和久井彬実・大宮 徹：過去 10 年間における立山室堂平の雪田草原へのササの侵入／吉田めぐみ：白馬岳におけるタテヤマキンバイ群落の現状：立山ノ越との比較／志内利明：絶滅危惧植物ヤドリコケモモにおける種子の低温保存／志内利明：鹿児島県霧島市のツクシムレスズメおよび高隈山のタカマムラサキの自生状況／早瀬裕也：*Dombeya wallichii*（アオイ科 Malvaceae）で観察された UV 蛍光を発する有色花蜜／西村幸芳・岩田朋文：富山県中央植物園におけるアカギカメムシの採集記録

○富山の生物

〒 937-0857 魚津市三ヶ 1390 魚津水族館内 富山県生物学会

<https://note.com/toyamaseibutu/n/n2761c327658f>

第 65 号 2026 年 5 月—松村 勉：鍛冶川の生物調査にあたって／福田 剛・福田有希子・佐藤 卓・松村 勉・金子靖志・氷見栄成：鍛冶川流域の森林構造／佐藤 卓：2025 年全国ブナ結実状況／長井幸雄：高頭山の植物相の概況

○河北潟総合研究

〒 929-0342 石川県河北郡津幡町字北中条ナ 9-9 NPO 法人河北潟湖沼研究所

<http://kahokugata.sakura.ne.jp/publications/sougouken.html>

第 27 巻 2025 年 5 月—高橋 久・川原奈苗：能登半島地震で損壊した河北潟干拓地堤防における植生断面調査

○石川県白山自然保護センター研究報告

〒 920-2326 石川県白山市木滑ヌ 4 石川県白山自然保護センター

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/publish/report/report52.html>

第 52 集 2025 年 12 月—八神徳彦・有本紀子・稲葉弘之：白山における外来植物種子除去マットの土から発芽した植物／岩本華奈・近藤 崇：白山弥陀ヶ原における雪田草原回復のためのチシマザサ管理手法の開発 2. ササの発達度合が 1 年後のササ再生および雪田植物回復に与える影響／岩本華奈・近藤 崇・野上達也・奥名正啓：石川県のブナ科樹木 3 種の結実予測とツキノワグマの出没状況, 2025

○石川県立自然史資料館研究報告

〒 920-1147 石川県金沢市銚子町 441 石川県立自然史資料館

https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/?page_id=8413

第 14 号 2026 年 3 月—上野裕介・片桐寿通：令和 6 年能登半島地震による隆起海岸の植物相：震災から 2 生育期を経過した輪島市大川浜・黒島の現状／中山博史：石川県におけるヒメフタバランの送粉生態／中野真理子・渡部晃平：石川県におけるスズタ属絶滅危惧植物（トチカガミ科）の新規標本に基づく新産地／中野真理子・北村俊平：手取川中流域におけるナニワズ大群落の全数調査：性比およびサイズ構成に着目して／黒澤慎介・北村俊平：セイタカアワダチソウが優占する石川県立大学ビオトープの植生管理：夏季の刈り取り頻度が種多様性と開花フェノロジーに及ぼす影響／北村俊平・中野真理子：手取川中流域の河川敷におけるヒメアオキへの大型草食獣による食害実態：ニホンジカの越冬利用の可能性

○福井市自然史博物館研究報告

〒 918 8006 福井県福井市足羽上町 147 福井市自然史博物館

<https://nature-museum.city.fukui.lg.jp/shuppan/kenpou/kenpou.html>

第 72 号 2025 年 12 月—榎本博之・阪本英樹・櫻井知栄子・初田利雄・藤野勇馬・山下照世：福井県で確認されたコクラン (*Liparis nervosa* (Thunb.) Lindl.) の生育地と個体数の記録 (2021 ~ 2025)／柴田あかり・榎本 博之・中山 博史：福井市自然史博物館所蔵ムヨウラン属標本の再検討（ウスキムヨウランについて）

○鳳来寺山自然科学博物館館報

〒 441-1944 愛知県新城市門谷字森脇 6 新城市鳳来寺山自然科学博物館

第 55 号 2026 年 1 月—中西 正：田之土里湿原—17 年間の植生変化 (2) 群落構成種の消長／天本匡有：新城市産タイ類・ツノグケ類チェックリスト 2026

○岐阜県植物研究会誌

〒 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 岐阜大学教育学部生物学教室植物分類研究室 岐阜県植物研究会
[#7B%22category%22%3A%220%22%2C%22keyword%22%3A%22%5C%22L2796A%5C%22%22%7D](https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=202502284615932251&rel=1)
第 39 巻 2024 年 12 月—天本匡有：岐阜市金華山における蘚苔類の保全生態学的研究／岩堀勝弥・高水正夫：岐阜県内で *Richardia brasiliensis* Gomes (Rubiaceae) ブラジルハシガサモドキを確認／福岡義洋：岐阜県で確認されたアズマツメクサ属 3 種／荻山恒弘：シダ植物雑誌 (3) —岐阜県植物誌に新産地を追加するもの—／高水正夫：岐阜県内で *Euphorbia ophthalmica* Pers. ニセシマニシキソウを確認／後藤稔治：シデコブシ群落の成立する丘陵地の谷底とその植生について／荻山恒弘：シダ植物雑誌 (4) —岐阜県植物誌に未記載のシダ植物 (2)／後藤稔治：植生遷移に関する倉内論文について (その 3)／福岡義洋：岐阜県のキヌヤナギと北海道のエゾキヌヤナギについて (続報)／福岡義洋・山崎玲子：岐阜県にエンシュウハグマの生育を確認／玉木一郎：岐阜県美濃市におけるフモトミズナラの新自生地と、フモトミズナラとコナラの交雑個体の確認／荻山恒弘・箕浦博之・安井佳代：岐阜県で確認されたイワガサ／立松和晃・立松和晃・天本匡有・鐵 慎太郎・渡部教行：新たに確認された外来植物ギンモウガシワ *Mallotus apelta* (Lour.) Muell.Arg. (Euphorbiaceae)／荻山恒弘・箕浦博之・安井佳代：岐阜県で確認されたシロテンマ

○ため池の自然

〒 489-0901 愛知県瀬戸市十軒町 682 里山湿地研究所 富田啓介宛 ため池の自然研究会
第 66 号 2025 年 12 月—福岡義洋：日本に自生するミカキグサ類 4 種 (表紙写真解説)／高橋祐輔：五色園湿地における自然の観察記録・希少な動植物一覧／飯尾俊介：通称「愛三豊田の森」の植物相 西広瀬町堀田池及び下流の湿地の植生を見る／中村 肇：新潟県長岡市のため池観察

○豊橋市自然史博物館研究報告

〒 441-3147 愛知県豊橋市大岩町字大穴 1-238 豊橋市自然史博物館
<https://www.toyohaku.gr.jp/sizensi/06shuppan/shuppan.html>
第 36 号 2026 年 3 月—山内喜朗：愛知県産蘚類チェックリスト (2025 年版)

○南紀生物

〒 646-0005 和歌山県田辺市秋津町 965 土永浩史方 南紀生物同好会会誌編集部
<https://nankiseibutu.jp/mokuji.html>
第 67 巻第 2 号 2025 年 12 月—山本好和・堀木 俊・木村優紀・上杉 毅：長崎県佐世保湾岸の地衣類／山本好和・安斉唯夫・石原 峻・中野 剛・松崎 務・WEI Xin-Li：長野県産の興味ある地衣類 I／山本好和・坂東 誠・高萩敏和・川上寛子：京都府産の興味ある地衣類 VI
第 68 巻第 1 号 2026 年 6 月—山本好和・平山吉澄・藤井久子：兵庫県産の興味ある地衣類 III／土永浩史・山本誠二：紀伊半島産の興味ある蘚苔類 VIII／山本好和・盛口 満・多和田 匡・吉野啓哉・上原政博：石垣島の地衣類

○くろしお

〒 646-0001 和歌山県田辺市上秋津 2228-10 玉田一晃方 南紀生物同好会 くろしお編集部
https://nankiseibutu.jp/mokuji_kuroshio.html
No.44 2025 年 9 月—北野一夫：和歌山県におけるバクチノキ (バラ科) の記録 II 2006 年～2025 年／北野一夫：和歌山県における植物採集記録 II

○和歌山県立自然博物館館報

〒 642-0001 和歌山県海南市船尾 370-1 和歌山県立自然博物館
第 43 号 2025 年 9 月—内藤麻子：和歌山県産野生植物分布資料 (7)

○奈良植物研究

〒 633-8529 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学 辻野研究室気付 奈良植物研究会
第 46 号 2025 年 8 月—木村全邦・土永浩史・道盛正樹・藤井久子・盛口 満：奈良県におけるクマノチョウジゴケ (キセルゴケ科) の新産地と近畿地方における胞子体形成時期／豊田和彦：奈良県北西部の二次林に生育するタニジャコウソウとその結実に貢献するトラマルハナバチ／森本範正：瀬戸 剛先生を偲ぶ／富永明良：奈良植物雑誌 (13)【コバノチョウセンエノキ・トキソウ・ナチシダ】

○近畿植物同好会々誌

〒 639-0254 奈良県香芝市関屋北 5-5-21 織田二郎方 近畿植物同好会

第 49 号 2026 年 1 月—山住一郎：瀬戸 剛先生と思い出のシダ／植村修二：瀬戸 剛先生との出会いを振り返って／天野史郎：瀬戸先生ありがとうございました／中野潤子：瀬戸先生とハネミギク／泉本法子：私の植物の先生／横川昌史・小林 智・森 小夜子：深泥池のフサザキウワミズヅクラ（バラ科）の生育状況と関西での標本記録／村瀬ますみ：テーダマツに寄生したマツグミ

○大阪市立自然史博物館研究報告

〒 546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館

https://omnh.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=20&sort=-pyear&search_type=2&q=1775653491387

第 80 号 2026 年 3 月—横川昌史・志賀 隆：1896 年に採集された大阪府産のヒメシロアサザ（ミツガシワ科）の標本の発見／弘岡知樹・横川昌史：大阪府堺市のため池で分布拡大する侵略的外来水生植物オオバナミズキンバイ（広義）（アカバナ科）

○人と自然

〒 669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目 兵庫県立人と自然の博物館

<https://www.hitohaku.jp/publication/r-bulletin.html>

第 33 号 2023 年 3 月—秋山弘之・James R. Shevock・松本美津・林田信史・Thien Tam Luong・Narin Printarakul・姚 奎宇：東アジアおよび東南アジア産オオタマコモチイトゴケ（広義）の分類学的研究（コモチイトゴケ科，蘚類）（英文）／黒田有寿茂・石田弘明：奄美大島におけるリュウキュウマツ林の分布現況：2022 年の現地調査から

第 34 号 2024 年 2 月—橋本佳延・澤田佳宏・松村俊和：西日本のイネ科草本の優占する草原を主たる生育環境とする草原生植物リスト（試案）

第 35 号 2025 年 1 月—沼田寛生・藤木大介：兵庫県丹波市青垣町の県有地内に自生する春植物群落の保全／中村 耕・渡邊 東馬加奈：兵庫県丹波篠山市におけるアリマウマノスズクサの確認と果実に来るハナムグリ族／山口純一：日本でのヤナギ属の葉形の用語

第 36 号 2026 年 1 月—町裕子・黒田有寿茂・石田弘明・中濱直之：野生植物の生息域外保全に向けた兵庫県立人と自然の博物館の取り組み：種子植物 81 種の発芽状況に関する報告

○倉敷市立自然史博物館研究報告

〒 710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1 倉敷市立自然史博物館

<https://www.city.kurashiki.okayama.jp/musnat/research/1011226/1025044.html>

第 41 号 2026 年 3 月—鐵 慎太郎：岡山県北部における帰化植物ツタバウンラン（オオバコ科）とメカススキ（イネ科）の記録

○広島市植物公園紀要

〒 731-5156 広島市佐伯区倉重 3-495 広島市植物公園

<http://www.hiroshima-bot.jp/about/kiyo/>

第 38 号 2026 年 3 月—世羅徹哉・濱谷修一：広島県のウツギ属（アジサイ科）植物について／山本晃弘・濱谷修一・和崎 淳・世羅徹哉：広島県東部産アズマレイジンソウ *Aconitum pterocaula* Koidz.（キンボウゲ科）の染色体観察／世羅徹哉：広島県におけるウスギムヨウラン *Lecanorchis kiusiana* Tuyama（ラン科）の新産地／佐久間智子：広島県におけるシロジャクジョウ *Burmanna cryptopetala* Makino（ヒナノジャクジョウ科）の新産地／井上尚子・久藤広志・坪田博美：広島県フロア覚書（13）広島市における塩生植物 3 種の分布記録；イソホウキギ（広島市新記録），イソヤマテンツキ（新産地），ハマゴウ（新産地）

○島根県立三瓶自然館研究報告

〒 694-0003 島根県大田市三瓶町多根 1121-8 島根県立三瓶自然館サヒメル

<https://www.nature-sanbe.jp/sahimel/study/publication.html>

第 24 号 2026 年 3 月—井上雅仁：島根県自然環境保全地域「三隅海岸」の植生と植物相／河合駿介・長尾知輝・井上雅仁：島根県で初確認されたオオウバユリについて／柳浦正夫・井上雅仁：島根県でアオカモメヅル（キョウチクトウ科カモメヅル属）の分布を確認／皆木宏明：アリ散布植物カナビキソウにおけるクロヤマアリによる種子散布の記録／澤田達也：島根県でシロテンマを再確認／柴田一樹・柳浦正夫・井上雅仁：島根県で確認されたオオバメギとその現状について／立花寛奈・白石泰志・井上雅仁：隠岐諸島でホンゴウソウを記録する

○ホシザキグリーン財団研究報告

〒 691-0076 島根県出雲市園町 1664-2 ホシザキグリーン財団

<https://www.green-f.or.jp/kenhou.html#kenhounew>

第 29 号 2026 年 3 月—三浦憲人：島根県産植物の染色体観察記録（11） / 三浦憲人：オニバス関連文献リスト（補遺）

○山口県立山口博物館研究報告

〒 753-0073 山口市春日町 8-2 山口県立山口博物館

<https://www.yamahaku.pref.yamaguchi.lg.jp/kenkyuhoukoku.html>

第 49 号 2023 年 3 月—杉江喜寿：山口県立山口博物館所蔵の植物標本（明治時代）

第 50 号 2024 年 3 月—杉江喜寿：山口県立山口博物館所蔵の植物標本（明治時代 2）

○徳島県立博物館研究報告

〒 770-8070 徳島市八万町向寺山徳島県文化の森総合公園 徳島県立博物館

<https://museum.bunmori.tokushima.jp/kiyo.html>第 36 号 2026 年 3 月—茨木 靖・崔 仁洙・伊藤 優・木下 覺・小亀とも子・古山道子・内藤芳香・山田 勲・山田 充：ナルトオウギ *Astragalus sikokianus* Nakai（マメ科）の保全に関する研究（2）—自然更新による持続的な個体群維持を目指して—（英文）

○愛媛県総合科学博物館研究報告

〒 792-0060 愛媛県新居浜市大生院 2133-2 愛媛県総合科学博物館

<https://www.i-kahaku.jp/publications/bulletin/>

第 28 号 2023 年 8 月—小林真吾：愛媛県立宇和高等学校旧蔵の植物さく葉標本—明治・大正時代の島津製作所製教育用標本—

第 29 号 2024 年 8 月—川又明德：イトゲジゲジゴケモドキ *Heterodermia leucomelaena* (L.) Poelt の再発見について

○長崎県生物学会誌

〒 852-8521 長崎県長崎市文教町 1-14 長崎大学教育学部生物学教室内 長崎県生物学会

<https://nagabio.ninja-web.net/index.html>

No.96 2025 年 6 月—中西弘樹：長崎県のヘゴの分布，生育状況とその保全

No.97 2025 年 11 月—中西弘樹：九州西部におけるグンバイヒルガオの開花個体の分布と平戸島の新産地／中西弘樹：諫早市貝津湿地の保全活動／田中慶太：長崎県産地衣類報告（11）

No.98 2026 年 6 月—中西弘樹：新長崎県植物誌ノート（長崎県植物誌補遺）15／栗原 暁：福江島（長崎県五島市）における絶滅危惧紅藻オキチモズクの再確認と新産地記録

○佐賀自然史研究

〒 841-003 鳥栖市古野町 600-1 鳥栖高校 矢川慎一郎 佐賀自然史研究会

<http://sashiken.sakura.ne.jp/>

第 31 号 2025 年 12 月—辻田有紀・堀川真子：シチメンソウの種子保存温度の検討と光条件および温度が発芽に及ぼす影響／上赤博文：佐賀県で新たな分布が確認された植物（14）／上赤博文：佐賀県におけるオオバウマノスズクサ亜属（ウマノスズクサ科）の記録について

*NL98 号 8 ページの「第 29 号 2023 年 12 月」は「第 30 号 2025 年 3 月」の誤りでした。訂正します。

○BOTANY

〒 869-1411 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陰 3575-1 河上昭夫方 熊本記念植物採集会

No. 75 2025 年 12 月—三樹和博・富田壽人：熊本市におけるタケ亜科植物の分布／徳留一生：天草で希少な植物／飯屋崎 忠：天草市に生育する巨大なオオバコ属植物／大澤風季：水俣市におけるニラバランの確認について／飯屋崎 忠：サトラノオの訪花昆虫にアリも加わる／飯屋崎 忠：シソバツツナミの閉鎖花／富田壽人：球磨川流域（球磨村渡～八代市遥拝堰）における注目すべき植物について／河上昭夫：スライド映写会 50 年のあゆみ／高宮正之：乙益正隆さんのご逝去を悼む／宮川 続：乙益正隆先生追悼／渡邊将人：乙益正隆氏との思い出

○宮崎県総合博物館研究紀要

〒 880-0053 宮崎市神宮 2 丁目 4-4 宮崎県総合博物館

https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mpmnh/46/0/_contents/-char/ja

第46輯 2026年3月—黒木秀一・服部 力：日本本土におけるヤエヤマキコブタケ *Inonotus pachyphloeus* の初記録／福松東一：宮崎県で確認されたオキチモズクの生育状況について／小玉昌孝：巨田池周辺の植物について—調査報告2—

○鹿児島県立博物館研究報告

〒892-0853 鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館

<https://www.pref.kagoshima.jp/bc05/hakubutsukan/shien/bulletine41-50.html>

第45号 2026年3月—寺田仁志・松原信之・藤崎誠之・小西祐伸・東 貴子：喜界島阿伝、上嘉鉄の隆起珊瑚礁上植物群落について／金本直子・寺田仁志・立久井昭雄：中種子町立野間小学校の校庭の植物相

○沖縄生物学会誌

〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科内 沖縄生物学会

https://www.okibio.jp/publish/01_05.html#01

第60号 2022年9月—水野 拓・高山正裕：絶滅危惧植物ナガバウスバシダの西表島における新記録

第61号 2023年3月—福川優希・上原綾乃・傳田哲郎：琉球諸島におけるオオハマボウ（アオイ科）の送粉者／梶田結衣・赤井賢成・梶田 忠：沈水植物マツモの南大東島からの初報告—沖縄島（うるま市）および石垣島の集団との比較—／大越光太郎・天野正晴・山本武能・内貫章世・齊藤由紀子：ココヤシ *Cocos nucifera*（ヤシ科）の野生個体を西表島に記録する

第62号 2024年3月—徳原 憲・佐藤裕之・阿部篤志・蘭光健人・辻田有紀・三位正洋：無菌培養と共生菌培養におけるイリオモテトンボソウの種子発芽とプロトコムの生育／水野 拓・高山正裕・新井良一：石垣島における絶滅危惧植物コウシュンスゲの新産地記録／松川夕華・小林 峻：ヤエマイシガメ *Mauremys mutica* kami（カメ目：イシガメ科）によるオオバギ *Macaranga tanarius*（トウダイグサ科）の種子散布の可能性

書評

福島県の野生ラン

山下俊之・山下由美 / 著 自費出版 定価 2,500 円（税込み）
B5判 191 ページ 2026 年 1 月（右の写真は帯付き本）

黒沢 高秀（福島大学）

山下他（2022）の*スミレ*属に続く福島県の植物の図鑑第二弾は、著者らが長年福島県内各地で撮影してきた108種類もの写真が掲載されているラン科植物図鑑である。花が立体的で、細長い花序を成すものがあり、撮影の難易度が高いにもかかわらず、写真では微細な構造も明瞭に示されている。著者らが発見し、研究を進めた日本新産オトメヤガラ、東北地方新産のタンザワサカナランはもちろん掲載されている。研究者自身が執筆している図鑑の強みであろう。かなり希少なはずのカモラン、オオミズトンボ、ツレサギソウ、アオキラン、ギボウシランもしっかり写真がある。精査が必要であるがツリシスラン、オオバナオオヤマサギソウは福島県新産の可能性があると思われる。産地なども新知見を多数含んでいる。学術雑誌や地元の研究会誌できちんと報告した方が良い情報も多いので、今後の論文執筆に期待したい。特定の県のラン科の図鑑であるが、写真のクオリティーの高さと豊富な新知見により、前書と同様に、県外の人にも十分に楽しめる本である。本書の巻頭近くにある「ふくしま 野生ランのある風景」は圧巻で、眺めていて飽きがこない。希少性の高さや近年の減少などで著者らが写真を撮ることができなかったためと思うが、福島県に産することが知られているアツモリソウ、ウチオラン、キシエビネ、クゲヌラン、スズムシソウ、ホザキイチヨウランが抜けており、そのことに関する説明もない。欲を言えば、これらなども他の人の写真あるいは標本写真などを使って紹介して福島県のラン科植物をコンプリートして欲しかった。自費出版であるにもかかわらず県内では主な書店に並んでいる。県外の人には書店では手に入ら



引用文献

山下俊之・山下由美・遠藤雄一，2022. ふくしまスミ図鑑. 歴史春秋社，会津若松.

発行所 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館植物研究部
日本植物分類学会

12